

2016年1月の金融経済概況のポイント

■景気の基調判断

- 今月も景気判断については、「個人消費等の回復に遅れがみられるが、基調的には持ち直している」との判断を継続しました。個人消費が依然盛り上がりを欠き、公共投資も減少傾向が続いています。一方で、短観結果によると、企業収益は比較的良好であり、雇用環境も改善傾向が続いています。オフシーズンながら観光も堅調を持続しています。このため、道北地域の景気は、基調的には持ち直しの方向にあるとみています。

■個人消費の動向

- 大型店売上高は、11月は前年比▲3.0%、12月は同▲0.6%と引続き前年水準を若干下回る結果でした。
- 両月とも天候要因もあるようです。11月は上中旬に比較的暖かい日が続き、冬物の出足が今一つとなったようです。一方、下旬は連休に大雪に見舞われ、客足に影響したとの声を聞きました。12月は、年末近くまで気温の高い日が続き、冬物衣料（特に婦人服）が影響を受けたようです。地域別には、旭川市内のマイナス幅が大きい傾向が続いています。旭川市内の店舗間競争が厳しいようです。
- 12月の新車登録台数は、前年比▲17.0%でした。これで2015年は結局すべての月で前年割れとなり、トータルでは、同▲13.2%でした。12月の前年比を「軽自動車」と「軽自動車を除く車種」とに分けてみると、「軽自動車」が前年比▲46.5%と大幅減少だった一方、「除く軽自動車」は同+10.9%と前年実績を上回りました。

■観光の動向

- 12月の北海道観光は閑散期で、観光客は夏場に比べると少なくなりますが、ホテル・旅館の宿泊客数の前年比は+8.0%で引続き好調でした。ただ、市内のホテルの稼働率は、ホテル間の競争が増していることもあって、11、12月と2か月続けて前年の水準を下回りました(11月62.0%<前年64.3%>、12月61.5%<同68.5%>)。こうした中でも、外国人客は引続き増加しているようです。北海道の雪に憧れて訪れる外国人観光客も多いと聞きました。「観光地点動向」をみると、旭山動物園が微減だったほかは、いずれも好調な入り込みとなっています。また、空港旅客数も道北4空港合計で前年比+6.4%(旭川空港は同+7.7%)、国際線利用客数は同+13.4%でした。このため、観光に関しては、一部に「夏場に比べると勢いは低下している」との声も聞かれたものの、全体としては、引続き堅調を維持していると言ってよいと思います。

■公共投資の動向

- 公共工事請負額は、11月は前年比▲25.9%、12月は同+6.2%でした。4月から12月までの累計で見ると、前年比▲12.0%となっています。全体の傾向としては、前年度の補正予算と合わせた今年度の予算規模が縮小していることから、減少の方向が続いています。

■雇用動向

- 雇用状況を示す指標は、引続きタイトであることを示しています。11月の有効求人倍率は、旭川が1.00倍(前年0.88倍)と1倍台にのせ、過去最高となりました。稚内は0.94倍(同0.83倍)、北見は0.99倍(同1.00倍)、網走は1.15倍(同0.92倍)でした。

■今後のポイント

- 年末の前回に総括した内容に変化はありません。今後、道北地域の景気全体が着実に回復していくためのポイントは、やはり個人消費の動向ではないか

と思います。そのためには、賃金の上昇を通じた所得の増加が欠かせないと思います。「所得面からの消費拡大効果」が目に見える形で顕現してくるかどうかはキーとなると思います。

以 上